

事業所における自己評価結果

公表: 令和 6年 4月 24日

事業所名 ひまわりクラブ第2教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している 点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		2	1		机・椅子を寄せてスペースをつくって活動している。 運動する内容では十分な距離をとることが出来ないため、狭い中で怪我につながらないようにしている。
	②	職員の配置数は適切である	1	2			利用人数による。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		2	1		室内はバリアフリー。玄関のみ段差あり。 玄関前に段差がある。スロープ等の設置スペースが確保出来ない。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	2	1			支援の中で改善できる部分等に浮いて話し合いや報告、相談できる時に行っている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3				評価表アンケートに記入して、改善に繋げている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	1			お便りは使用しているがHPは停止されているため。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		1	2		外部評価がどの範囲か不明な為。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	1			研修会を行い、支援の共通理解につなげている。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3				作成している責任社となるべく相談するよう意識している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	1			発達検査等を参考にしている。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	1	2			個人で行っている時とそうでないときがある。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	1	2			経験のある活動で安心感につながっている部分もあるが、変化をつけられる内容はできるだけ提案・実践している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	1	1		きめ細やかまでの設定が難しい。長い時間を有用に出来るよう手厚い支援が出来るようにしたい。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している 点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	2	1			
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		3			職員間で話しはしているがもう少し時間があると良い。送迎時間等があるので難しい部分もある。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	2		1		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3				モニタリング評価部分ではスタッフそれぞれが報告しあっている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	2		1		
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3				
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	2	1			日々、連絡調整を行っている。普通小学校との情報共有は保護者からの連絡が中心。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		1	2		いない
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2		1		
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	1	1		
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	1	1		
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		3			交流する機会を増やしていきたい。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		2	1		
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3				
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	2			
		⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3			
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3				日頃から相談にのっている。細部はスタッフ同士で話し合い、保護者に伝えるようにしている。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している 点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	⑳	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		2	1		つながりのある保護者同士で連絡している様子。
	㉑	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3				苦情が起きた際にはすぐに共有される。 苦情等があった場合は迅速に対応している。
	㉒	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3				お便りを毎月発行している。
	㉓	個人情報に十分注意している	3				保護者へ誰と遊んでいた等子どもの名前を伝えないようにしている。
	㉔	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3				
	㉕	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			3		今後増やしていければいいと思う。
非常時等の対応	㉖	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3				周知できている。 電話やプリントで配布されている。
	㉗	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3				災害時、避難場所は近隣学校になっているがその学校の近くまで実際に行っている。
	㉘	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3				定期的に研修会を開いている。
	㉙	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	1			子どもへ十分な説明されているのか分からない。→お子さまへの説明が分かりやすく行えるように努めていきたい。
	㉚	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		1	2		保護者の方と相談しており、必要になった場合は医師から指示書をもらうようにします。
	㉛	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	1	1		事例集はないが報告や振り返りは行っており記載は残している。事例集としてファイリングしていきたい。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。